週　報

日本基督教団　翠ヶ丘教会
since 1964

2026 年度年間聖句

「主は人の一歩一歩を定め
御旨にかなう道を備えてくださる。」
（詩編 37 編 23 節）



どなたにも開かれている定期集会

主日礼拝　毎日曜日　午前 10 時半
子どもの教会　毎日曜日　午前 9 時　～10時
祈 祷 会　各水曜日
○昼の聖書研究祈祷会
（第3・午後2時）
●夕の祈祷会
（第2、第4・午後7時）

牧　師　　井 殿　　準

〒 252-0312　相模原市南区相南 2-25-65
TEL. 042-742-1593
FAX. 042-742-1393
ホームページ：http://www.midorigaoka.jp
郵便振替口座　日本基督教団翠ヶ丘教会　本会計
00290-4-80707

3234　2026 年 11 月 8 日

礼 拝 式 順 序

（降誕前第 7 主日）

司式者　井 殿　　準
奏楽者　伊 東 永 子

前　　奏		奏 楽 者
招　　詞	詩編 96：7 ～ 9	司 式 者
讃 美 歌	１２７「み恵みあふれる」	一　　同
聖　　書		司 式 者
	創世記１８：１～１５（旧 P. 23）	
使徒信条	（９３－４－Ａ）	一　　同
祈　　祷		司 式 者
讃 美 歌	５０４「主よ、み手もて」	一　　同
説　　教	「天幕と愛と私と」	司 式 者
祈　　祷		〃
讃 美 歌	４４１「信仰をもて」	一　　同
聖 餐 式		〃
讃 美 歌	５２４「われらみ名により」	一　　同
献　　金		〃
主の祈り	（９３－５－Ａ）	〃
頌　　栄	２６「グロリア、グロリア、グロリア」	〃
祝　　祷		司 式 者
答　　唱	４０－６「アーメン」	一　　同

～「主の平和を」と、祈りを込めて隣席の方々と挨拶を交わしましょう～

報　　告		司 式 者
讃 美 歌	９１「神の恵みゆたかに受け」	一　　同

・当教会では讃美歌 21 と新共同訳聖書を使用しています。お持ちでない方は受付に常備されているものをご使用ください。
・立ち座りのご不自由な方はどうぞ着席のままお臨みください。
・ＦＭ電波による補聴器が用意されています。受付に常備してありますのでご利用ください。
・マスクの着用は個人の判断にお任せいたします。ご心配な方はマスクを着用してください。

先週の説教要旨

「今も共にいる」

（黙示録 21：1 ～ 5、ヨハネ 12：20 ～ 26）

黙示録 21 章は、黙示録のクライマックスとも言われるが、ヨハネがここで神からの最も大いなる恵みとして語るのは、「神が人と共にいてくださる」ということであった。「主が共にいてくださる」とは、聖書が一貫して語る恵みである。聖書に登場する人々は皆、この言葉に力と勇気を与えられて来た。我々にとっても大きな恵みであるが、共にいてくれているのは、神ばかりではない。

我々は皆、誰かと共に人生を歩んでいる。しかし、普段から「共にいる」ことの深い意味、その素晴らしさについて考える者は少ない。我々は、大切な人がいなくなって初めて、「共にいる」ことに支えられていたことに気付かされる。しかし、我々は、召天者記念日の今日、我々の愛する者たちが、キリストの恵みによって、「天」と「地」とに住む場所は異なっても、今も共にいてくれていることを思い起こそう。

「誰かが共にいてくれている」という恵みは、神がくださった恵みである。天に召された大切なあの人、目の前にいるこの人と「共にいる（いた）」ことによって、今の我々がある。我々が、毎年召天者記念礼拝をささげるのは、神の御前で、故人となった愛する人々が良い意味でどれほど深く影響を与えてくれていたのか？ということ、故人の人生がどれほど意味深いものであったのか？を思い起こし、そのような出会いをお与えくださった神に感謝をささげるためである。

我々の目の前にあるこれらの遺影の中の一人一人は、必ずしもいつも溢れる愛をもって生きた「完全な人格者」ではなかったかも知れない。しかし、この方たちは、我々の知らないところで、自らの弱さに涙し、神に祈りながら、何度も「共にいる」ことの大切さに生きようとしていたのではなかったろうか？ 破れだらけの自分のことをなお愛して天の御国に招いてくださる神の愛に支えられて、懸命に生きていたのだ。

召天者記念日の今日、我々は先に召された者たちの信じて生きた道を想い、そのあとに続くことを通して、「一粒の麦」が「一粒のまま」でなく、豊かな実りを結んでいることを証しして行こう。